

# Top Interview

— 変革に挑む —

まとめ／堀水潤一 撮影／関本陽介

日本歯科大学  
理事長・学長  
中原 泉



## 「名医よりも良医を育てる」を理念に 環境変化に対応してゆきたい

1 906年公布の旧歯科医師法に基づいて歯科医師が誕生して以来100年、歯科医療界にはさまざまな波がありました。「歯科は富国強兵にかかりなし」と軽視された時代を経て、戦後は歯科需要が増大。高度成長期には歯科医師不足が社会問題化しました。それにこたえるよう歯学部の新設が続きますが、一転、歯科医師の過剰を懸念する声があがっています。

今後も、そうした大小の波があることを認識しつつ、冷静に対処する必要がありますと考えています。過剰と言われますが、適正数は明確ではありません。医師に対する歯科医師の割合は半世紀前とほとんど変わらないのです。まして、今年入学した学生が現場で活躍し始める

10年先を考えれば、歯科医療における需給バランスは大きく変化していることでしょう。団塊世代の大量リタイアに加え、疾病構造が変わるからです。

歯科医師は、う蝕（虫歯）の治療をしているだけではありません。高齢者の増加に伴い、歯科医療は、歯周病の予防や、咀嚼関係の口腔ケアへとシフトしています。最近の研究では、糖尿病や肺炎などの全身疾患と、歯や口腔の疾患の関連が明らかになってきました。附属病院の「口腔介護・リハビリテーションセンター」が開催する研修会では、500人収容のホールが看護師、介護士、栄養士などで埋まります。第一線のプロが二所懸命に学ぶ姿を見ると、口腔ケアに対するニーズの高まりを実感します。本学

歯学部でも、摂食・嚥下機能の改善を図るべく、今秋「口腔リハビリテーション多摩クリニック」を開設する予定です。

本学は、2つの歯学部を有する世界最大の歯科大学です。2006年には学部名に「生命」を冠し、それぞれ生命歯学部、新潟生命歯学部としました。歯も口腔も生命体の一部。歯科医療は生命を扱っていることを忘れてはならないという考えからです。その点、今後期待されるのは再生医療です。人工の歯を骨につなぎとめる歯根膜という組織が再生できるようにすれば、患者さんは本物の歯に近い機能を得ることができそうです。実現困難と言われていましたが、今や臨床応用できる段階にあります。患者さんからは「いつできるのだ。自分が実験台になるから進めてくれ」という声もあがります。実現すれば、歯科医療の内容が大きく変わると期待しています。

本学の基本的な考え方は、「名医よりも良医を育てる」というもの。患者さんにとつて歯の痛みは全身の痛みです。また、おいしく食べ、話すことは人生の喜びです。そうした患者さんの苦痛や気持ちを理解でき、誠実さや倫理観、責任感をあわせもった良医を、これからも育成したいと考えています。

【理事長・学長プロフィール】なかはら・せん●1941年生まれ。日本歯科大学卒業。医学博士。日本歯科大学新潟歯学部(現 新潟生命歯学部)長などを経て、2000年より日本歯科大学学長。日本私立歯科大学協会会長。

【大学プロフィール】1907年私立共立歯科医学校として創立。72年新潟歯学部開設。2006年、歯学部を生命歯学部、新潟歯学部を新潟生命歯学部と改称。2つの歯学部のほか、東京、新潟両キャンパスに2つの大学院研究科、3つの附属病院、2つの短期大学を擁す。